

恐ろしいトリカブト

函館市で、山菜のおひたしを家族で食べ、父親（71歳）と長男（42歳）の2人が死亡、次男（41歳）が重傷という事故が発生しました。

事件の原因となった山菜はトリカブトとのことで、勿論、トリカブトが有毒植物であることは承知していますが、改めてその恐ろしさを認識させられたところです。

山菜を採りに行って事故の当事者となった長男は、山菜採りのベテランで、しかも山菜を採りに行く前、食べられる山菜と有毒植物の見分け方を植物図鑑で確認していたということですが、それでも今回のような事故が起きてしまうということは、食べられる山菜かどうかの判別が想像以上に難しいことを物語っています。

トリカブトはキンポウゲ科トリカブト属の植物の総称で、アコニチンという有毒成分を含み、食べると短時間で吐き気などの症状が出て、最悪の場合は今回のように死亡するケースもあります。外見のよく似ているニリンソウ等と共生しているため、誤食しやすいといわれています。

一方、食べることが出来るニリンソウもトリカブトと同じキンポウゲ科ということで、写真で見比べると、微妙に違っていることは素人目の私にも分かりますが、実際に山に入って群生している状況を見たら、ニリンソウとトリカブトの判別はできないだろうなと思います。

道内では、これまでも度々有毒植物による食中毒が発生しています。この10年間だけでも10数件発生しており、亡くなった方もいます。また、原因となった山菜はトリカブトだけではなく、ユウガオ、イヌサフラン、スイセン等ですが、やはりトリカブトが原因の場合が多いようです。

私の知人にも、山菜採りが趣味という人がいます。その人は、どの位山菜採りが好きかというと、例えばゴルフ場でも、プレーの合間にちょっと林の中に入っては何か見つけてきて、これは食べると美味しいと説明してくれたりします。私には、ゴルフをしに来たというより山菜採りに来たのではないかと見えてしまうのですが、そんな人に対して、ゴルフでは何時も後塵を拝しているの

は悔しい限りです。

私は山菜は大好きですが、ゴルフ場の山菜となると、キツネがおしっこを掛けているんじゃないかとか色んな事を想像してしまいますので、持っていかないかといわれても頂いて来たことはありません。もっとも考えてみれば、スーパーなどで売っている山菜だって似たり寄ったりなのかも知れませんが……。

さて、有毒植物の誤食による事故は、4月から5月にかけて発生するケースが多いということですから、自分で山菜を採りに行く人は十分注しなければなりません。

私のように判別能力のない人は、もっぱらスーパーなどで買って食べるに如かずです。(塾頭 吉田 洋一)